昭和62年8月25日（1987）　No.244

大豊町の概要

位置	東経133度40分　北緯33度45分 （位置は地籍調査班の調査による）
面積	320.54平方粁　東西32粁 南北28粁　部落数86
人口	8,665　男 4.104　女 4.561
世帯数	3,262（8月末日現在住民基本台帳調）

大豊の館報

昭和62年8月25日発行
全世帯配布
編集　大豊町中央公民館
発行　大豊町中央公民館
印刷　高知印刷株式会社

高知自動車道開通記念

モグラマラソン大会

10月4日（日）（雨天決行）

車が走るまでに　人間が走り歩いてみませんか

嶺北五カ町村では、十月中旬に供用が開始される高知自動車道（大豊～南国間）の開通を記念して、来る十月四日（日）にマラソン大会を開催します。

このマラソン大会は嶺北五カ町村で組織する「れいほくモグラマラソン大会実行委員会（会長野島孝彦）」が主催し、社団法人日本青年会議所高知ブロック協議会（会長浜口幸作）が共催して行われます。

モグラマラソンスタート地点付近（大豊ＩＣ）

よいよ開通いたします。

こうした時、高知県は「国民休暇県高知」を宣言し、県民をあげて、高知県活性化の運動や気運も高まっております。

そこで、私達の住む高知県が、四国が、活力があり魅力ある地域、また誇りと自信の持てる地域として、四国横断自動車道「川之江～南国」間の早期全面開通に県民の熱い望みを込めて、高知自動車道を使ってのただ一度の「れいほくモグラマラソン大会」を企画致しました。四国の中央部に位置するマラソンの行われるコースは総延長二十一㌔中トンネルが八本で約十二㌔と全体の五五％を占めることから「れいほくモグラマラソン大会」と命名された。

大会は、健康マラソンコース三㌔、五㌔コースと開通記念コース二〇㌔の他にだれでも自由参加できるジョギング一㌔も予定しております。

この区間を自分の足で走れるのはこれが最初で最後ということで、緑豊かな嶺北の山岳地帯を抜けるハイウエーを車が走る前に、人間が走ってみませんかということで広く県内外に呼びかけております。多くの町民の方々の参加をお願いします。

また、このマラソン大会は来年三月二十五日から四十五日間の予定で開催される88れいほく高速博の協賛イベントにも位置づけられており次の開催要領で行われます。

開催要領

開催趣旨

私達、高知県民の待望しておりました高知自動車道「大豊ＩＣ～南国ＩＣ」間が本年十月中旬をもっていよいよ開通いたします。

緑豊かな嶺北の山岳の地で、いなかのハイウエーを走り、歩き、人と人とのふれあいと豊かな自然を満喫していただきたいと思います。

開催日　昭和62年10月4日（日）

○受付　午前8時～9時30分

○開会式　午前9時30分～午前10時

○総ジョギング　午前10時～午前10時40分

○マラソンスタート　午前11時

○閉会式　午後3時

○表彰　各種目随時表彰閉会

三㎞、五㎞、二十㎞コース上位6位まで表彰します。（完走者には完走証、参加者全員に記念品を進呈します。）

○記録

二十㎞コース上位6位までは計測しますが、他は自己申告とします。

○場所

大豊町川口南（大豊インターチェンジ）

○大会コース

高知自動車道（大豊ＩＣ～南国ＩＣ間）

競技種目及び定員

健康マラソン　三㌔　三〇〇名

五㌔　三〇〇名

開通記念マラソン　二〇㌔　一〇〇名

参加料　一人　二〇〇〇円

総ジョギングは無料

申込先　大豊町高須二三一　大豊町教育委員会社会教育班内

れいほくモグラマラソン大会事務局ＴＥＬ㉒～〇四五〇

○申込用紙は教育委員会にあります。

締切日　開通記念コース二〇㌔については定員を超えましたので締切らせて頂きます。

○三㌔、五㌔並びに総ジョギング一㌔コースはまだ受け付けておりますので早目に申し込み下さい。

その他　本大会において、病気や事故、また紛失等が生じた場合、主催者は応急処置はしますが、他については一切責任はもてませんので申し添えます。

■駐車場は大会会場周辺に準備します。

■弁当については、申込書によりお申込み下さい。

■ゼッケン等は当日受付で渡します。

☆☆☆

大豊町史下巻(近代現代編)発刊迫る(九月下旬予定)

希望者は教育委員へ会へ

昭和五十八年四月から調査、資料集収を行っていた大豊町史近代現代編が九月末をもって発刊されるはこびとなりました。この町史は昭和四十九年に発刊された上巻（古代近世編）についで十三年ぶりに発刊されます。

編集に当たっては、町長より任命された十一名の編集委員が十一項目に亘る編纂方針に従い執筆されたのを、尚四名の監修委員（委員長　都築建康）によって監修されました。町史の内容は藩政時代、明治維新への移行期から現代に至る町内の歴史が内外の時代の流れとともに千二百頁にわたり収録されております。身近な町史として皆様のお役に立つと思います。是非とも御購入下さい。

大豊町史上巻（古代近世編）が昭和四十九年三月に発刊され、七年を経た同五十六年に下巻の発行が決定された。しかし二年間の準備期間を置いたので実際に調査及び資料収集の作業に入ったのは五十八年四月からであった。

以来次の編集委員が任命され、資料の収集整理を進める一方で十一項目にわたる編纂方針をたてた。

編纂方針

一、町民のための町史とするため、文章表現、当用漢字、現代仮名づかいに留意し、町民に親しまれやすいものにする。ただ、引用文、史料等については原典に忠実でありたい。（引用文中の難解な文字には振仮名をつけた）

二、史実にもとづき科学的検証にも耐えうる権威のあるものとしたい。

三、民主的史観に立ち郷土の建設発展に資するものとしたい。

四、史を柱とし、誌（地誌、民話、伝承、民俗等）で肉付けをしていきたい。

五、生活、民俗の変遷と地場産業の歴史に重点をおきたい。

六、学校教育ならびに社会教育に活用できるものにしたい。

七、町民の協力のもとに広い範囲から資料を収集したい。

八、資料のより正確を期するため隣接町村との連携をはかりたい。

九、重要な資料（史料）は保存措置を講ずる。

十、地域による格差をなくするよう努力したい。

十一、内容（時期）については藩政時代、明治維新への移行期から原則として昭和五十五年までとする。

この基本方針の中で特に町民のための町史にするため、読み易く親しみやすいものとし、また上巻発行のとき批判のあった地域の格差をなくするよう格別の配慮がなされた。

しかし資料の存在が一部地域に偏っているものについては、記述もこれに影響されることはやむを得なかった。

県下でも例の少ない町内の素人ばかりの十一名による合作は、分担を細かく分けていたとはいえ重複する個所や反対に欠落の個所が多かった。また文章表現や文態がまちまちであるため四人の監修委員を選任して、重複する所を除き、不足の所を書き足した上で史実の再調査、文章表現、誤字脱字などにまで手を加えた。その上更に石原が担当して原稿と原稿の間に繋ぎの文章を入れたり文態を統一するため手を入れたり再校正を行った。

最後に県立図書館の広谷喜十郎先生に原稿を校閲して頂き、再び手直しを加え本年一月末に脱稿の運びとなった。

町史の内容

一、二〇〇ページを超える

この町史（下巻）の内容（期間）は藩政末期より明治維新への移行期に筆を起し、昭和五十五年までを原則としたが、名簿など簡単なものについては同六十一年まで記したものもある。

上巻が口絵写真その他合わせて約八百ページであったので、せめて九百ページ位はと考えていたが書き初めてみると、史に誌的な千二百ページを超える膨大なものとなった。

第一章　行政

明治維新の改革、地方自治の推移、大豊町行政区画の変遷、旧四ケ村のあゆみ、大豊村の発足（合併までの経過、合併後の進展、天坪地区南部五部落の分離、新庁舎の建設、町制施行、財政再建、人口の推移、建設事業、町政に跡を残した人々）などの歴史

第二章　産業・経済

産業～農業全般の推移、普通作物、蚕糸業、特用作物、畜産、林業、製紙、内水面漁業、鉄工業、電源開発などの変遷

経済～通貨と一般金融、各種講の変遷、戦後の経済動向、農地と農地改革、各種産業団体（農業協同組合、森林組合、養蚕組合、漁業協同組合、農業共済組合、商工会）などの歴史

第三章　宗教

町内の宗教の種類、神社神道の神社、宗教法人、寺院佛堂の歴史、宗派宗教（神宮教、黒住教、大社教、金光教、天理教、創価学会、ひとのみち教、立正佼正会、ほんみち教、生長の家など）の歴史

第四章　教育

藩政時代の寺子屋教育、明治、大正、昭和各時代の学校教育、町内各小・中学校の沿革、幼児教育、青年補習教育などの他町立家政高等女学校、また社会教育では社会教育全般、青年団、婦人会、体育会、公民館活動などの変遷について…

第五章　交通・通信

道路網の発達、国道、県（郡）道、町道、橋、渡船、トンネルなどの他、交通機関の発達、国鉄土讃線、郵便、電信電話の推移、各郵便局、電信電話局の変遷など

第六章　警備衛生

警察制度、警察署、駐在所の沿革、消防活動及び消防団の沿革、衛生行政、医業史など

第七章　各種公共機関

高知地方法務局豊永出張所、高知作物報告事務所大杉出張所、蚕業指導所、農業改良普及所、林業指導所、山間農業試験場、南小川治山事業所、土木出張所

第八章　社会福祉

社会保障制度、老人福祉、司法保護事業、社会福祉協議会、各保育所の変遷

第九章　災害と防災

町内の火災、風水害、地滑りなど

第十章　文化

文化推進協議会の活動と変遷、文化人、文化団体、町内の文化財と史跡

第十一章　人物

社会に貢献して物故した人物天坪地区十名、大杉地区二十四名、西豊永地区二十二名、東豊永地区二十名の事跡について記述

第十二章　戦争と兵事

戊申の役、西南の役、日清・日露戦争、シベリヤ出兵、昭和時代の戦争など時代の背景と経過、戦争と平和、戦没者名簿など

第十三章　民俗

町内の年中行事の餅搗き、松飾り、大晦日、正月、門明け、鍬初め、かいつり、彼岸、オサバイ様、七夕、半夏、神祭など三十二項目の民俗年中行事の他雨乞い、屋根葺き替え、祝いごとの習俗、葬式、結婚のしきたりなど

付

年表

町内の主な出来事を国、県の出来事と対比して年を追って記述した。

このように明治維新の激動期から、太平洋戦争が終結して民主的文化国家として再建する混乱の時期を通して、私達の先祖が農業林業商工業などにたずさわりながら、現在の大豊町を築いてきた生きざまに少しでも触れたいと努力してきた。

本町史が大豊町の将来の発展に少しでも資することができれば望外の喜びである。

フランスの作家ワイルドは「歴史をつくるのは誰にでも出来る。しかし歴史を書ける人は少ない。」と言っている。また「歴史上の真実は唯一無二であり多数決ではない。」とも言われている。このような意味ではこの下巻もまだまだ推敲を重ねなければならない個所があろう。

本書の構想を樹てて六年とは言え、実際の活動は資料収集に一年、執筆に二年、監修校正に一年とわずかな期間であったため、より完全なものを求めて焦っていたが、県立図書館の広谷先生から「町史は悠久な時の流れの中の一里塚である。」と言われた詞に慰められている。

お礼とお断り

ともすれば挫けようとする私達を絶えずご指導下さり、励まして下さったご協力者と、貴重な資料や写真などを快く提供して頂いた方々には深甚の感謝をこめ町史の巻末にご芳名を採録さして頂いた。

社会のため貢献され、また大豊町政のために尽瘁された人物篇にはまだまだ記載したい方がいられたが予想より三百ページも超過したのでやむを得ず割愛しなければならなかった。

また第一章、行政の中の町政に跡を残した人々の中には歴代の村長町長・助役・収入役・村会議員及び議長などを記録してあるが、区長会を通じて歴代区長名の資料収集にご協力頂いたものの紙面の都合で記載できなかったのでその労を謝しご厚礼申しあげる。

文中はすべて敬称を省略させて頂きました。

戦没者名簿についてはご遺族が転出されたり、不明の方などもいてなかなか調査が困難であった。不明の事項についてはご了承願いたい。

最後に私達に適切なご指導を賜った広谷先生と編纂に当って何かと側面からご協力を頂いた事務局の方々の労に深く感謝申し上げて擱筆する。

町史下巻予定価格五、〇〇〇円

町史上巻残部数一六〇冊

町史監修副委員長　石原　正恒

編集委員の方々

委員長　都築　建康（執筆監修）
副委員長　石原　正恒（執筆監修文責）
委　員　都築貫一郎（執筆監修）
〃　上村　聖文（〃　〃）
〃　岡林大佐美（執筆）
〃　髙橋　俊郎（〃）
〃　徳弘　秀綱（〃）
〃　久保　斉（〃）
〃　桑名啓三郎（〃）
〃　上村　芳郎（〃）
〃　前田　波穂（〃）
〃　永森　信良（教育長）
事務局　重森　元亀（前教育長）
〃　山﨑　博資（中央公民館長）
〃　石川　靖朗（前中央公民館長）
〃　今井　達也（中央公民館主事）
〃　近藤　育子（筆耕）

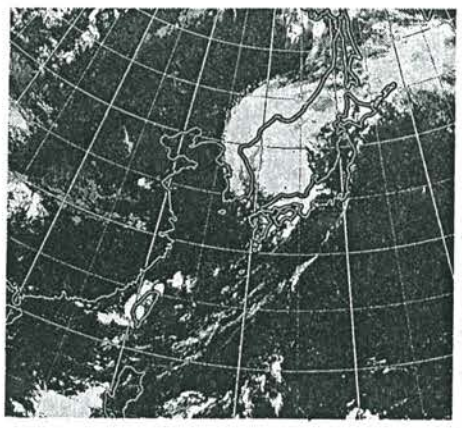
4名の監修委員会

編集委員会

集中豪雨被害総額 七億一千六百余万円

被害吉野川沿いの北岸 西豊永地区に集中

台風5号



大型で強い勢力をもった台風五号が九州西岸方面への北上に伴い、県下中央山間部は七月十四日夜に入りゲリラ的豪雨に襲われた。JR土讃本線並びに国道三十二号では各所で大小の山崩れ、崩壊が続出し交通は寸断され不通となった。

本町では、特に吉野川の北岸西豊永地区に集中し降った大雨は軟弱な地盤を緩ませ各所に大小の山崩れ、がけ崩れを誘発した。

降り始めてからの雨量は十四日午前八時から十八日の午前八時までに六四〇㍉（観測地大豊町役場）を記録する大雨となりJR大田口駅付近では時間雨量が九〇㍉を越える集中豪雨となった。目の前が見えないほどの大雨の降った東寺内では裏山が崩れ土石流となり、民家を直撃し痛々しい犠牲者を出す惨事がおこった。

町では十五日午前二時から十八日までの三日間、県の出す大雨警報等に応じ三回にわたり災害対策本部を設置し（最終十八日は岩原トウジ山関係）厳重な警戒体制をとりながら情報の収集に努めるとともに、災害調査職員を増員し各地の被害状況の調査に当たった。

路側が崩れた町道

調査が進むにつれ被害は河川災害を主体に道路、がけくずれ等二百四十七個所で被害総額は七億一、六〇〇万円余りに達した。被害個所は西豊永地区の吉野川の北岸地帯が約九〇％を占め局地的な集中豪雨被害が浮きぼりとなった。以下災害の状況は次の通り。死者一名、家屋の倒壊二棟、二〇〇平方㍍、河川災三十四ケ所三億六、八〇〇万円、町道九十八ケ所一億六、九〇〇万円、林道三十四ケ所四、五〇〇万円、農道三一ケ所五、三〇〇万円、施設水路一〇ケ所一、三〇〇万円、耕地六ケ所二、〇〇〇万円、がけ崩れ三二ケ所四、九〇〇万円、となり集中豪雨の恐ろしさをまざまざとみせつけられた。なお災害復旧工事については八月初旬から十月末にかけて国の災害査定を受け緊急度の高い個所、施設から三年計画で復旧工事が施工される予定である。

各所の小谷が増水、土石を押し流す

集中豪雨 土石流（寺内 西久保）民家襲う

女子中学生が死亡

梅雨明け宣言もつかの間、去る七月十四日、台風五号の接近によるゲリラ的集中豪雨が町内各地を襲った。

この集中豪雨は吉野川を挟みJR土讃本線と対岸国道三二号線沿に集中し十四日夜に入って激しくなった雨脚は降り始めてから深夜までに三五〇㍉（最大時間雨量九三㍉）の降雨量を記録した。

なかでも吉野川北岸では大小の山崩れや谷川の氾濫が各所に発生した。東寺内では平野岩男さん(ｇ)方の裏山が高さ約七〇㍍、幅十〇㍍にわたり突然崩れ土石流となり、土砂三〇〇立方㍍が平野さん方の木造平屋建約一〇〇平方㍍を直撃し、可憐な少女の命を奪う痛ましい惨事となった。

この日平野さん方では降りしきる大雨を心配しながら家族が床についた間もなくの午後十一時四〇分頃の出来事であった。ドーンという異様な物音とともに土石流が家屋の裏手から玄関に向けて一瞬のうちに突き抜け、奥の部屋で姉の公子さん(三)と一緒に寝ていた二女の彩子さん(一四)＝大豊中学校二年＝が土砂にのまれ行方不明となった。

地元消防団（大田口部・船戸部）や本山警察署、近所の人ら約六〇人が雨の中徹夜で必死の救出作業を続けたが、そのかいもなく十五日午前四時三〇分、彩子さんは遺体となって発見された。

トウジ山再び崩壊

災害対策本部設置 住民14世帯47名避難

泥まみれの消防団員や近所の人達が目頭を潤ませ合掌するなか、末っ子で幼い時から一緒に寝起をして彩子さんを可愛がっていた祖母の於繁さんの姿が痛々しかった。

山間部の集中豪雨、土砂災害の恐ろしさと悲惨さをまざまざと見せつける惨事となった。

彩子さんの御冥福を心からお祈りし御家族の方々に慎んでお見舞申し上げます。

トウジ山崩壊現場、山腹から吹き出る無気味な濁水

一方岩原トウジ山では、過去五十五年、五十七年に大規模な地すべりが発生して以来、高知県による防災工事（床固め工、えん堤、流路工等）が施工され一応の落ち着きを見ていたが、十七日、降り続く大雨の影響で地盤が緩み再び崩壊の恐れが出て来た。

このため地元では、午後五時四十五分に町災害対策本部（本部長渡辺町長）の避難勧告を受けて住民十四世帯四十七名が旧岩原小学校跡に設けられた避難住宅等に避難した。

地元消防団東部分団（分団長中西修）では災害対策本部の要請により岩原部（部長下村建雄）二〇名が、十七日午前十一時十五分から出動。夜間に入り大久保部（部長北村茂）二〇名の応援を得て現場と下方集落JR岩原駅近辺の二手に別れて徹夜で警戒に当った。

トウジ山には県が一二ケ所に設置した遠隔式の伸縮計があり、土石の動きが集落上部に設けられた地すべり移動観測所にデータが刻々と送られてくる。県の委託を受けた民間企業の専門家がデータを分析し大規模崩壊を起す時間を午後八時頃と推定、消防団等関係者に予告。予告とほぼ同時刻の八時十五分頃に不気味な地鳴とともに第一回目の崩壊が発生したが大事には至らず、計測、測定の確実さに感心した。

今回の崩壊は、五十七年のものと比べては小規模であったが、住民は崩壊予告時間が夜間でもあり、激しい雨脚とともに消防団の設置したサーチライトに照らされた赤茶けた山肌から大量に吹き出て、いっこうに減らない濁水を見ながら不安な一夜を過ごした。

翌一八日には戻り梅雨の影響で梅雨前線が南下し雨雲が四国地方に向いつつあるとのニュースも流れたが、心配された降雨もなく崩壊現場の土石の移動も落着いたことにより、午後一時三〇分災害対策本部より避難解除が出された。

心配された大事には至らなかったものの住民の疲労の色はかくせず、午後二時すぎには家財道具をまとめ家路へと急いだ。

西久保でも大土砂崩壊

民家押し潰すあわや大惨事に

幹線林道大田口・下名線が集落上部を通じる西久保集落では、林道上部から高さ約二〇〇㍍、幅六〇㍍近い大規模な山崩れが十四日夜半に発生した。

雨水を大量に含んだ土砂は林道を破壊し直下にある松岡昇さん(四九)方の倉庫一棟約二〇平方㍍と今井俊彦さん(六)方の家屋一棟九七・一平方㍍の木造平屋建てをひとのみにしてようやく止った。

幸にして松岡さん方では住屋には影響は無かったものの真夜中、異様な物音に目を覚ました家族は一睡もせずに不安な夜を過ごした。

又家屋が全壊し土中に埋った今井さん方では、数年前から大阪市の方に一家が住居を移しており、時々家の管理に帰郷する程度の空屋であったことから惨事をまぬがれた。

今井さん方では梅雨明けには夏休みを兼ねて家族そろって帰郷を楽しみにしていたとも聞く。もし人が住んでいたらと思うと身の毛もよだつ思いがする。

町内には近年大きな災害は比較的少なく国、県の行なう地すべり等防止工事も各地で施工されその効果も上がっているものの、急峻で軟弱な地質を有する本町にとっては今回のような集中豪雨には手のほどこしようのないのが現実のようである。

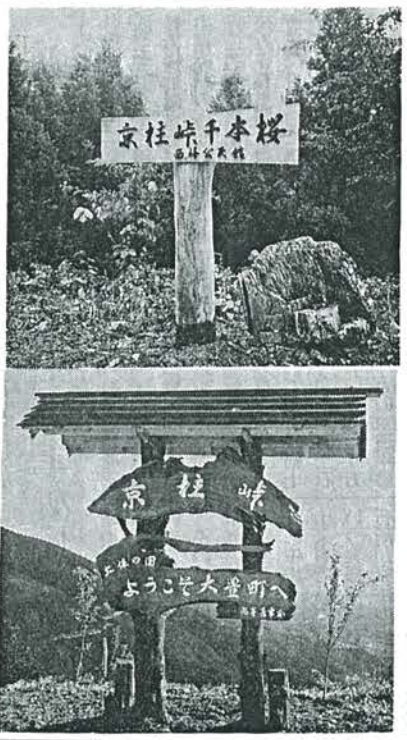
今後は災害ケ所の早期復旧はもとより、まず人命尊重を基本とした防災計画の強化と充実、住民の防災思想の普及徹底、並びに危険個所の再点検が急がれる等、教訓を残し台風五号は去っていった。

西久保の土砂崩壊現場　土砂に押し潰された今井さん宅（最下部）

京柱峠一帯を将来西峰観光の拠点に

西峰地区民奉仕作業 草刈や観光標識設置

西峰地区では去る七月十二日（日曜日）に京柱峠一帯の奉仕作業を行った。小学生から老人クラブの会員まで約九〇名が午前八時に集まり、三谷公民館長の指揮のもとに作業に移った。



手づくりの見事な案内標識

当日は曇り空で雨も心配されたが熱心な作業に圧倒されたか次第に天気もよくなり正午からは暑い日差となった。

昭和六十年に記念植樹したソメイ吉野及びボタン桜一、五〇〇本が今では三米程に順調に成育しており、周囲に伸びた雑草を動力草刈機や鎌などでそれぞれ分散して刈取りを行った。

一方、中堅の青年会員達（会長三谷敏文）は小桧曽山（三角点）標高一、五二一・四・七㍍から矢筈山標高一、六〇六・五㍍の登山道の整備と観光標識の取り付け作業に分散した。

この観光標識は西峰地区公民館に昨年観光部会が発足したのを契機として西峰青年会員（青年団員から最高齢者四十八歳までの男性で組織）が数日前からケヤキや桧の古株を製材して、昼間の仕事を終えた夜間、西峰中学校の工作室に集まって作ったもの。帯鋸・彫刻刀を使いペンキやニスを塗り、丹念な仕上げはプロ顔負けの見事な出来映えで、霊峰梶ケ森を望む京柱峠をはじめ登山道、三角点へ建立された。

日頃は静かな山並も終日賑やかな歓声に包まれ将来西峰の観光の拠点として一層整備を進めることを誓いあいながら一行は夕日の落ちた峠を下って家路にと急いだ。

桜の下草刈りに汗を流す西峰地区の人達（京柱峠付近）

ふるさとの味 山菜料理で乾杯 雨に泣いた

田舎のビアガーデンツアー 岩原農村広場へ受入

（財）大豊町観光開発協会では去る七月四日（土）「田舎のビアガーデン」と銘うってJR高知駅が募集する一三〇名のツアー客を岩原農村広場へ受け入れた。

このビアガーデンは大豊町の郷土料理（山菜を主体にした料理）や郷土芸能（岩原神楽）を披露し、我が町のPRを目的とし計画されたものである。

ツアー客は高知駅発一五時一二分の普通列車で土佐岩原駅に一六時五六分に到着。

観光開発協会の職員や農協婦人部が農村広場の大きなケヤキの木の下に設営した野趣たっぷりの席に仲間同志が思い思いに陣どる。

農協婦人部の方達が腕によりをかけ前日から仕込んだ見事な山菜料理を囲みながらツアー客は「お美味しい」「お美味しいながらジョッキを傾けていた。

この日は梅雨期でありながら午前中は晴間も出るほどの上天気であったが午後になり小雨が降ったり止んだりで関係者が気をもむ空模様となった。一時は屋内でとも検討もしたが、折角の野趣あふれる屋外での設営を楽しんで頂きたいということもあり一同祈るような思いで宴は始まった。

しかしながら、その祈りも天に届かず開宴後僅か二〇分足らずで、今までは小降りであった雨が梅雨末期特有の突然の大雨になり、全員が近くの老人憩の家に手に手に料理やジョッキを持っての大移動となった。

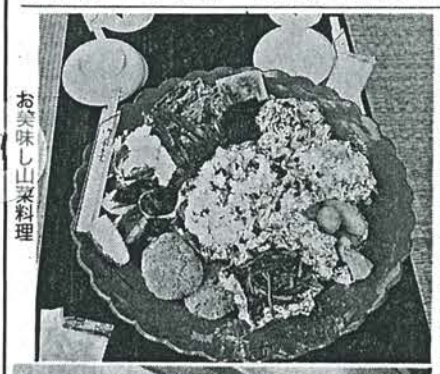
雨に濡れての移動にお客から苦情が出るのではないかと関係者一同心配したが短時間とはいえ腹ごしらえもできたのか、「自然じゃ、自然じゃ」、いたしかたないといいながら雨に濡れながらも気持よく移動してくれた。

老人憩の家に移った一行は最初屋外で上演される予定であった岩原神楽の実演があり鐘や大鼓にあわして豪快に舞う素晴らしい神楽にくいいるように見入っていた。なかでも若者が米粒を入れた盆を両手の手の平に乗せて舞うヘギの舞は勢いあまって舞台から会場に飛びおりる一幕もあり会場から割れんばかりの拍手に若者も熱が入る。

これにあわして年輩の男性（師匠）が爺の面をつけて両手に盆をにぎり、若者の真似をしてユーモアたっぷりに舞う格好にお客は笑いころげ拍手喝采。雨に濡れたことなど忘れて大喜びであった。

婦人会の作った山菜料理もすべて売れつくされ一行は午後七時一〇分には手に手に沢山の土産（コンニャク、干ゼンマイ、ゆず酢、ミョウガ団子）を持って大雨のなか特別に設けたアイランドエクスプレス四国（欧風列車）に乗り込みカラオケを歌いながら高知方面へと帰っていった。

それにしてもこの度の大雨には泣かされた。頭からずぶぬれになって残務整理をする観光協会の職員や婦人会、関係者の御苦労に頭が下る。


お美味し山菜料理

岩原神楽ヘギの舞 拍手喝采

傘をさしてジョッキで乾杯これもまたいいじゃない

高知営林局今村局長西峰へ

直轄治山事業視察 国有林を活用し村おこしを

地元盛大に歓迎会

高知営林局今村清光局長（写）は去る七月七日、着任後（昭和六十一年四月着任）初めて西峰地区における南小川民有林直轄治山事業の現地視察に訪れた。

この視察は従来局長交替時に行われるのが通例となっているが今回は着任後一年四カ月ぶりの現地入りとなった。今村局長は局の谷口治山課長等と共に林道柚木線まわりで沖野々川における直轄治山工事の進捗状況等について視察し、午後三時に南小川治山事業所（楠瀬康雄主任）に到着。

事業所では、楠瀬事業所主任より、南小川直轄治山事業の現地の状況等について詳しく説明を受け、厳しい条件下で勤務する職員の苦労も労らった。続いて、京柱峠、足谷山（通称）周辺の治山工事現場を視察すべく準備したが、大雨となり道路崩壊の恐れもでたためやむなく中止。

折しも歓迎にかけつけた渡辺町長と挨拶の後、懇談に移り渡辺町長の西峰地区の現状並びに歴史とロマンについて情熱的な話に局長はいたく関心をもたれ和やかな懇談がしばし続いた。

高知営林局では昭和三十三年に西峰に南小川治山事業所を開設以来三十年近くにわたり南小川流域の久生野、大畑井、沖、及び柚木、蔭、三谷の一部、面積四、四五一㌶を局の直轄治山区域に指定して地すべり防止工事、復旧治山工事を施工しており国土保全、防災面での重要な役割を担ってきた。

また、西峰地区においては防災上の安全面をはじめ年間五億円相当の工事が発注されていることから住民の就労の場の確保等多くの恩恵に浴している。

大豊町では昭和三十三年に民有林直轄治山推進協議会（会長永森宗雄）を設立し用地交渉や地元の要望事項等についてのパイプ役として南小川治山事業所との付合いは長い。

また、事業所の職員も事業の最盛期には主任以下七名が勤務していたが現在では行財政改革等により主任以下三名と減少している。職員は従来地元にとけこみコミュニティー事業にも積極的に参加しており地元から多くの好感がもたれている。

午後四時半から地元有志による民有林直轄治山事業推進協議会の主催する局長歓迎会で永森会長は日頃南小川流域における直轄治山事業の一方ならぬ推進についてお礼を述べ、今後ともへ指定地域の拡大と国有林野を村おこしのための観光資源として民間活用が出来るようお願いも兼ねて歓迎の挨拶を述べた。

続いて渡辺町長は、私は「仕事に情熱を、人生にロマンを」をモットーとしているが、局長の「人生において大事なことは、夢とロマンと反省である」というこの格言は、お互いに相通じるものがあり同感である。

今後ともよろしくとユーモアも交えた歓迎の挨拶に局長も苦笑。

これを受けた今村局長は地元の歓迎に対しお礼を述べ、現在の国有林の経営は非常に厳しいが森林のもつ重要性に対する認識や、森林の機能発揮についての要請が今日ほど高まっている時はない。こういう時こそ前向きな姿勢で頑張りたい。

これからは他局に比べて進んでいる生産基盤を活かしながら国有林の環境資源をどのようにして地域の活性化に役立てていくかが課題だ。例えば、村おこし面での観光立村に際しての地域への寄与の仕方もあろうと思うし、官民一体となった銘柄材生産体制の推進などいくらでも考えられる。

こうしたことの実現にはやはり地域の協力なくしてはどうにもならないことである。

幸にして西峰地区では地区をあげての協力体制をとって頂いており治山事業もことのほか進んでいる。

今後はこうした貴重な住民の協力と我々の経験を活かしながら地域のためになる事業に取りくみたいと、地元にとって非常に心強い挨拶があった。続いて三谷雄喜西峰地区公民館長の乾杯の音頭により開宴。今村局長を囲み和やかなうえにも盛大な宴は夕方まで続いた。

一行は大田口に宿泊し翌八日には早明浦の直轄治山工事現場を視察して帰路についた。

歓迎会で挨拶する今村局長

ドゥーイング コンサート・オン梶ケ森

夜霧の中徹夜の若者 一、〇〇〇人演奏に酔う

梶ケ森県立自然公園に四国四県のアマチュアバンドが集って徹夜で演奏を繰り広げるドゥーイングコンサート・オン・梶ケ森87』が去る八月一日から二日の正午過ぎまで梶ケ森山頂近くのキャンプ場で行われた。

コンサート会場

テントもちでの参加風景

このコンサートは地元の青年グループの主催で行われたもので、Tシャツの販売等で資金をつくり、入場料は無料で開催されたもので、千人近い聴衆が訪れた。

主催者の一人久保信二さん（高須自営業＝三二）の話によると町内の青年有志でつくるアマチュアバンドグループが若者の力を結集して手づくりのイベントをやろうということになり、昨年から取り組んでいる。

今年で二回目を迎える。

昨年は県内十三バンドが参加したが、今回は四国四県に呼びかけたところ県内勢を中心に愛媛、香川、徳島県の外に京都、岡山からも参加があり、三三バンドが梶ケ森にかけつけてくれた。

コンサートは一日午後一時からキャンプ場に地元の仲間が鉄製のパイプで組み立てたステージで開演。ロックを主体にジャズ、フォークなど幅広い演奏が次から次へと披露された。

夜に入って十時近くなると聴衆も少なくなるのが普通であるが、この日ばかりはその逆で十時、十一時になると高知市方面から若者が続々と集まり始め、会場は若者の熱気で一杯となった。

夜霧でステージもぼやけるなか、演奏に酔しれる者や、踊る者さまざま。

十一時頃には渡辺町長も激励に訪れ、ステージに上り若者を激励、聴衆から拍手がまきおこる。

今まで何度かこうした催しに参加したが、町長が激励に来てくれたのは初めてだ、うれしい、すばらしいと興奮気味に話す若者のグループもおり梶ケ森は一晩中興奮の坩堝と化した。

天候にも恵まれ二日正午まで熱の入った競演は続き若者は燃えた。

環境週間終わる

町内各地区で一斉清掃

これはひどい

国道32号待避所はまるでチリ捨場

国道32号を清掃する大豊ライオンズクラブの人達

国道待避所はまるでハキダメ（北川駅近く）

環境週間の目的は、環境問題に対する国民の責任と義務の自覚を促すとともに、行政と地域住民が一体となって、よりよい環境づくりを進め、明るく住みよい町を築いていくことにある。

町内での一斉清掃の取り組み方は集落によって多少の違いはあるものの毎年大方の集落、環境週間内に自分達の住んでいる周辺の草刈や道路・側溝・水路などの普段清掃の手が届かない所を重点的に行っている。

今年も去る六月五日から六月十一日までの環境週間中には国道、県道、JR土讃線沿線等の主だった集落では各戸からの奉仕による清掃作業が行われた。

去る六月十三日（土曜日）午後一時から国道三二号線及び町道ヨボーシ線（旧国道）の清掃を行った。大豊ライオンズクラブ（会長永森信良）並びに町職員（住民課、建設課）や小川部落住民の話によると予想以上に空缶やビンの投げ捨てが多くドライバーのモラルの低さを嘆いていた。

中でもたぶん大豊の住民にはいないと思うが、家庭用の新しい生ゴミや紙オムツに汚物と一緒にジュースの空缶を何個も包み悪臭を出し分別に苦労のいくものも多くあり国道の待避所という待避所はまるでハキダメのようであった。

また普段は車で気がつかない県道沿いの山林の中にも誰が捨てるのか大量の空缶、空ビンとともにトタン板や、冷蔵庫などの粗大ゴミが不法投棄されており、この日集められたゴミの量は何と軽四トラックに山盛り八台、普通（二t）トラックに二台であった。

生活が豊かになりながらも心の貧しさをつくづく感じた環境週間であった。

第15回ソフトボール ナイターリーグ戦開始

22チーム堂々の入場式

町体育会ソフトボール部

ソフトボール部恒例のナイターリーグ戦が五月二十日午後七時から農村広場で開幕しました。

今年は町内二十二チームが参加して九月末まで熱戦がくりひろげられます。

入場行進のあと開会式では野島会長より三カ月余りの長い試合展開となるが、日頃鍛えたスポーツマン精神を発揮してケガのないように頑張ってほしいと挨拶。

続いて昨年度優勝チーム一くいわれるが、この日ばかりはずい分と若い者がいるように見えグラウンドは精気に満ち若い情熱が一杯の感がした。

選手宣誓のあと、Aコート西岡助役、Bコートでは永森教育長の始球式でいよいよ今年も大豊町の夏の風物詩ナイターリーグの幕が切って落とされました。

ながちょうばのリーグ戦ですが、若いエネルギーと意気でスポーツを通じて各職場での人づくりや、町づくりに頑張ってほしいとの西岡助役の祝辞でした。

勢揃いした２２チーム（農村役場）

野島会長に優勝旗返還、一挨クラブ

の一部リーグ一挨クラブ並びに二部リーグ武内&同級組よりそれぞれ優勝旗の返還が行われたのち、西岡助役、永森教育長から励ましの言葉を頂きました。

大豊町は高齢化社会とよ

嶺北地区で初めて

女性交通安全指導員誕生

高須の徳弘秀子さん

人命尊重の精神を基本とし、正しい交通秩序を確立するため、献身的な指導を頂いている。高知県交通安全指導員にこのたび（四月一日付）、高須の徳弘秀子さん（主婦四七歳）が高知県知事から嶺北地区大豊支部の指導員に委嘱されました。

嶺北五ケ町村には現在十四名の指導員が配置されており、それぞれの地域に密着した交通安全指導を行っております。大豊町では五名の指導員が委嘱されており、なかでも女性指導員は嶺北地区では初めてということで多くの方々から期待されております。

徳弘さんは高須で自動車整備工場を経営する御主人と御主人の母さん、息子二人の五人家族の主婦で町の民生委員としても活躍しています。

主な持場は大杉地区の国道から旧国道（杉部落）に入る三差路（高須）で毎月一日、十日、二十日の他に交通安全運動期間中街頭指導を行っているほか、交通安全教室等にも出席し、お年寄りから子供までの指導に当たっております。

徳弘さんの話では、初めての経験で、不安はあるが県の指導員協議会の行う厳しい研修会にも出席して指導員の任務の重大さをつくづく認識した。今後は先輩指導員の御指導も受けながら交通弱者である老人と子供達の安全を守るため正しい交通ルールの指導に努めたいと抱負を語ってくれました。

県下の交通事故は昭和四十六年をピークに逐年減少の傾向にあったが近年また増加傾向にあり、昨年は死亡事故抑止目標を上回る一〇〇人の死亡事故が発生しております。

県ではこうした事態を憂慮し当時二〇〇名であった指導員を三〇〇名に迄増員して何とか事故の減少、特に死亡事故の半減を達成すべく全県民一丸となって努力をと、呼びかけており、指導員の任務も大なるものがあります。

第10回大豊町

小中学校合同音楽会

日頃の学習成果発表 大杉中体育館で

一学期も半ばを過ぎた去る六月二十六日、大豊町内の小中学校の音楽教師で組織する町教育研究会音楽部（部長長野由美子教諭大杉小）では大杉中学校体育館で恒例の「小中学校の児童・生徒五七〇人余りによる町内合同音楽会」を開催した。

本年は初めて町内の全小中学校が一堂に集っての合同音楽会となり、正午から午後二時まで三〇曲余りに渡る合唱や合奏が発表され有意義な一刻を過ごした。

中でも低学年が小さな口を一杯あけてリーダーのタクトに合わしての合唱や一生懸命に合奏する姿は素晴しく、日頃の先生方の御苦労が実った発表会となった。

日頃の練習の成果を発表する児童

伊野町で行われた東西南北まわり舞台

第六回中央地区文化交流発表会

東西南北まわり舞台 伊野町立公民館で

高知市や南国市、長岡郡、土佐郡など県中央地区の文化交流を図ることを目的とし、中央地区文化推進連絡協議会の主催で「第六回東西南北まわり舞台」が去る六月七日伊野町立公民館および体育館で開かれた。

発表会には十五市町村が出演、観客は各地の出し物に喝さいを送った。

中央地区では民謡や踊りなどの発表の機会が少ないことから、同協議会が合同発表会を開いて芸能部門の落こみを取り返そうと計画して今年で六年目を迎かえ年々そのレベルは向上しつつある。

大豊町からは日本舞踊部門で「めでたし尽し」渡辺貴子、山崎美智子、上池サチ、上村和子（敬称略）「華扇」小笠原菊子、平石光子、「会津盤梯山」吉岡フジ子、三谷千雄子、「最上川舟唄」上村和子、上池サチ「長者の山」上村和子、上池サチ、吉岡フジ子、三谷千雄子等が日頃の練習の成果を披露し会場から拍手を受けた。

また展示部門では洋画の部で「窓辺」と題して朝比奈富美男が、写真部門では「あけぼの」岡本淳が、書道の部では「俳句四句」飯田和子が出展し観客の目を引いていた。

働きながら大学へ

＝高知短期大学「社会人特別入学」案内＝

高知短期大学は、一九五三年県下の勤労青年の大学教育をもとめる運動によって創立され、すでに三十余年の歴史をもち、優れた人材を数多く輩出しております。

高知短期大学は、県立の二年制夜間、男女共学の大学で、一般教育科目を土台に、法律学と経済学を中心にした社会科学の教育に重点をおいた大学です。

高知短期大学は、創立以来「働きながら学べる」大学として、社会人の多くの方々に広く受験の機会を保障してきましたが、新しい二十一世紀を目前に社会がはげしく変化発展をとげている今日、県下のさらに多くの社会人があらためて社会進歩のための真理とより人間らしく生きるための確信をもとめて、高知短期大学で学ばれることを強く期待しています。

今回高知短期大学は、このような立場からとくに中高年齢社会人に有利な「社会人特別入学」制度を、次のとおり実施し、学習意欲にできるかぎり応えることに致しました。多数の皆さんの応募を心から歓迎します。

◎社会人特別入学試験制度の趣旨

社会的に多様な教育・学習要求が高まりつつある今日「教育の機会均等」の理念にたち、社会科学を系統的に学ぼうとする意欲ある中・高年齢層の社会人に広く門戸を開くものです。

◎募集人員

一二名（定員の一〇％）以内

◎対象者

1　年齢満三十歳以上の者（昭和六十三年四月二日現在）

2　次の各号の何れかに該当する者

◎高等学校を卒業した者

◎通常の課程による十二年の学校教育を修了した者

◎外国において学校教育における十二年の課程を修了した者

◎文部大臣の指定した者

◎文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

3　短期大学及び四年制大学の卒業者は除く

4　高知県内に居住し、通学可能な者

5　合格した場合に入学を確約できる者

◎出願期間

昭和六十二年十一月十六日（月）から十一月二十五日（水）までに必着のこと。

受付時間は、十四時から十九時まで（但し土曜日は十七時から十九時まで）

◎選考

1　政治・経済の諸問題に関する試験（論述式）十三時から十六時三十分まで

2　昭和六十二年十二月十三日（日）十三時から十六時三十分まで

◎授業料

年額十万八千円（年四回分割納入制）改訂された場合はその額による

なお詳細は、高知市永国寺町五番十五号、高知短期大学、教務課（電話0888・73―2156）へお問い合わせ下さい。

四国電力からダム放流についてお願い

今年も台風や豪雨が発生するシーズンとなりました。

四国電力では、穴内川ダム、及び繁藤ダムから放流する場合、警報車やサイレンでお知らせいたしております。

サイレンヤ警報車による警報を聞いた場合は、川に物をおかれている方、また川におられる方はただちに安全な場所へ移動するようお願いいたします。

なお、放流する場合のサイレンの鳴らし方は次のようになっております。

1分間吹鳴　15秒休み

1分間吹鳴

いかがお過しですか お母さん！

教育相談のご案内

私たちは誰でも生活をしていく中で、迷ったり、不安になったり、気持がすっきりしないことがよくあります。

☆たとえば、子どものことで担任の先生にも話ができず、心の中で悩んでいる方はいないでしょうか。

☆又、よその子どものことで気にかかることはありませんか。

☆誰かに悩みを聞いてもらって解ってほしいという気持になったことはありませんか。

そんな時、どうしたらよいでしょう。一人で解決できればいいのですが、だんだん自分に自信がなくなって、気分も沈んでいくような時は、思い切って「教育相談所」に話をしてみるのも一つの方法です。

相談所は、問題解決のためにお母さんやお父さん、子どもさんと一緒に努力します。

また必要に応じて専門の機関への紹介も致します。

○相談所への連絡は

大豊町教育委員会内、教育相談所（電話の申し込みでも結構です。七二―〇〇九四）

○相談内容は

子どもの進路のこと、友だちのこと、学校のこと、そのほか親子の悩みなど、どんなことでもかまいません。秘密はかたく守ります。

○相談日は

月、水、金の午前中（八・三〇―一二・〇〇まで）

但し、相談のある方の都合に合せるよう配慮致しますので、事前にご連絡下さい。電話相談も受け付けます。

（担当　近藤）

第10回日本民謡大賞 高知県大会石川さん優勝

十月全国大会に出場

「土佐柴刈り唄」を熱唱する石川博文さん

ことしで十回目を迎える「日本民謡大賞」、高知県大会が去る七月十二日高知市のRKCホールで開かれました。

午後一時からの予選会には高知黒潮民謡会、高知民謡同好会など十団体から五十二人が参加し日頃鍛えた自慢ののどを競い合いました。

大豊からは三人が参加し船戸の石川博文さん（㊐さ）JR四国勤務、が「土佐柴刈唄」で見事に優勝し、十月に東京・武道館で開かれる全国大会に高知県代表として出場することになりました。

石川さんは関西吟詩高知容鳳会の豊永支部に属し昭和58年四国競吟（徳島市）大会では四国一にもなられた方ですが、民謡歴は二年ということで大会出場一回目にして優勝の栄に輝きました。

全国大会では、先輩や友人からありがたいアドバイスをいただいているので、お落ちついてせい一杯がんばりたいと抱負を述べていました。

全国大会での活躍を期待し心からお慶びいたします。

やまびこ 句会 作品抄

◇◇◇